

# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.125



3 月

発行／公益社団法人国際観光施設協会  
総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋  
2-8-5 多幸ビル九段2階  
TEL03-3263-4844  
FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp  
URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2020年3月2日

## 令和2年度を迎えるにあたり

副会長 涌井史郎

2月14日から16日まで台湾の台中並びに台北に公務出張をした。その公務出張とは「ONSEN ガストロノミーツーリズム推進機構」の会長として、初めての海外における同ツーリズムの招聘に応えるものであった。日本からの参加者200余名と共に、政府観光局長をはじめ台中市幹部の熱烈歓迎を受け、日本統治時代の建築遺産を主とした、各々ポイントで名物の食事や飲み物のサービスを受け、舌とお腹そして心も満たされたひと時であった。

日本からの申し込みは350名余であったが、コロナウイルスの影響もあったとはいえそれでもまあまあ参加者であった。しかしそれ以上に驚かされたのは、かつてのサーズの被害を教訓とした、コロナウイルス感染予防の徹底ぶりであり、つくづく日本の対応は甘いと強く感得させられた。何せ新幹線の乗車やホテルの出入り口で、それぞれ体温計の照射を受け立ち入りの規制が厳格に行われ、街中ではほぼ100%の人々がマスクをしている。

世界大交流時代におけるこうしたリスクは、当たり前のように降りかかってこざるを得ない。振り返れば未来。それを考えると感染者5億人で死者が1億人近いパンデミックとなった過去のスペイン風邪を参考に備える必要がある。それも100年前、1918年から19年までの交通事情の下での感染拡大である。まさに観光産業分野の危機管理が問われる正念場でもある。

危機管理といえ、災害や感染症の罹患といった不慮の災害にどのように対応してゆけば良いのかといった課題ばかりではない。技術革新が既往の観光産業の業態を根底から覆しかねない状態に差し掛か

っている。そうした状況下、情報分野のサービス事業者に振り回されるのではなく、しっかりとサービス事業の本質であるホスピタリティや、顧客の満足度といった等身大のヒューマンスケールを前提にしたシステムやハードの本質で向き合える体制を強化することが重要であろう。

例えば、ビッグデータを活用したAIの観光分野への投入がある。その投入が現実化すると、いかに多くの旅客のデータを握るかで、市場におけるその企業の支配の優劣が決まってしまう可能性が生じる。量が質を生み出す構図である。現にホテル業界でのマリオットとウエスティンの合併戦略などはそうした視点から見る必要がある。

また代理店機能についても同様なことがあげられる。旅客の全ての観光行動が、MaaSにより、交通機関の切符、タクシー、宿泊先、そしてガイドに至るまでシームレスに準備できることになる。

そこで2020年度の協会も、こうした「社会的大変容」にいち早く対応し、人間環境としての施設機能や周辺の自然との親和性をテーマにした居心地の可視化といったこれまでの取り組みに加え、可視化されぬ見えないITCの世界、とりわけネットワークの世界における仕組みづくりや、それに対応する施設・設備のありようにも目を向け、癒しの空間と時間を技術的な視点から提案する者として、最先端のITCの動向などに対する理論武装とそれを利活用した施設や整備のありようについて、改めて会員相互の研究を重ねるスタート地点として位置付ける必要がある。

## HOTERES JAPAN 2020 報告

ホテルズ実行委員長 浅野一行

2020年第48回国際ホテル・レストラン・ショーは、2月18日(火)～21日(金)、東京オリパラの関係で、今回に限り場所を東京ビッグサイトから幕張メッセに移して開催されました。

当協会ブースは、今年も「日本のこころ」を総合テーマに、「匠のこころ」「エコ・小のこころ」「旅するこころ」「木づかいのこころ」「巧みのこころ(新UD客室研究)」「巧みのこころ(Ai研究)」のテーマ展示に「そなえのこころ(耐震研究会)」「もてなしと観光資源を探る(交流部会)」を加えた8つのブースを構え、センタープラザを合わせ、合計23小間、207㎡での出展となりました。東京オリパラの年までを目途に継続してきたテーマ「日本のこころ」は、これで節目を迎えたことになり、ここ数年の展示内容の充実ぶりからは、積み重ねてきた研究の厚み・深みを感じていただけたのではないかと思います。

当協会主催のホスピタリティデザインセミナー「ホテル・旅館の開発&デザイン 最新潮流 2020」も、施設のオープンラッシュを背景に、注目施設や注目テーマが多く聴衆を集めました。

しかしながら、今年のショーの来場者数では、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に向けた対策や感染予防による自粛が影響し、4日間のトータルで、昨年の約6万7千2百人に対し、約4万3百人とほぼ6割に留まりました。思わぬ危機が影を落とした結果となりましたが、東京オリパラを控え、日本の観光が本来の姿を一刻も早く取り戻せるよう、早期の感染拡大の終息を願ってやみません。

## 建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会長 崎山 茂

建築部会では昨年4月よりホテル京阪築地銀座グランド、ホテルプルマン東京田町の2つの新しいホテルと肥後細川庭園の見学会に加えて、2度の水上セミナーを開催しました。

見学会では施設を見るだけでなく、食事やお茶を楽しみながら聞くセミナーを行ない、見るだけではわからない魅力を楽しんでいただけたと思います。

水上セミナーでは江東区の海拔ゼロメートル地帯や五輪施設周辺を中心にこれからの湾岸の姿や水害から街を守る仕組みを垣間見ることが出来ました。

今年も昨年と同様に注目の施設の紹介を通じて会員の皆さんの情報交歓と交流の場を提供していきます。

## 設備部会の活動状況とこれからの予定

設備部会長 藤野健治

設備部会では、「地球環境保全関係の情報を収集研鑽し広める活動」「会員企業にとって興味のある施設の見学を通じて新技術等に関する幅広い知識を習得する活動」等を行っております。

令和2年度の事業計画としては、2回（2年7月と3年3月に開催予定）の施設見学会と1回の設備部会全体交流会（2年11月に開催予定）を予定しており、幹事会にて実現に向けた打合せを進めています。

見学会では会員各社の新製品・施設のご紹介や関心の高い施設の見学を行うとともに懇親会を行って会員相互の親睦を図る予定です。

また、見学会および交流会の概要は機関誌に掲載し皆様に情報発信致します。

## インテリア部会の活動状況とこれからの予定

インテリア部会長 寺本昌志

今年度の部内交流会は9/26 乃村工藝社B1Fノムラスタジオにて95名の参加人数で行われました。会合の中で、協会内における会員相互の積極的な交流は、互いの利益に繋がる事を再認識して頂き、その上でここ2~3年の各グループ活動についてリーダーより説明を行いました。またその後の懇親会でも個別に活発な交流を持って頂く事ができました。今回の交流会後に6社9名の方がグループ活動に新しく参加する事になりました。

各グループの活動は今年度も活発に行われ、それぞれ多くの会員の方に参加頂きました。

7/18 稲葉なおと氏講演会「客船の旅について」

8/6 ビスポークホテル施設見学会

10/24 小田原江之浦測候所施設見学会

2/5 セミナー「よみがえるホテルオークラの伝統美」

来年度も部会活動を通じ会員の皆様へ有意義な情報をお届けできるよう、また委員の皆さんがこの活動を通じて、より良い交流を楽しく行えるよう努めて行きたいと思っています。

## ☆新入会員紹介☆

【メーカー】株式会社カンディハウス横浜

(代表者)代表取締役社長 (担当者)マネージャー

藤田哲也

若杉武志

〒220-6003 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1

4F

TEL045-682-5588 FAX045-682-5585

営業内容:業務用・家庭用・特注家具の販売、インテリアデザインの企画・設計及び工事管理、内装部品の販売

## 第114回ゴルフ会結果報告と次回予告

ゴルフ会 会長代行 杉浦 司

恒例の国際観光施設協会の春のゴルフコンペを下記のとおり開催致します。

日 時：令和2年5月21日（木）

コース：飯能グリーンカントリークラブ

プレイ費：約20,000円（キャディ付・昼食

1ドリンク付き・パーティ）各自精算

会 費：4,000円

コンペ終了後は表彰式と懇親会、賞品も多数用意しております。会員の皆様の親睦の場として、お誘いあわせのうえ、多くの参加をお待ちしております。

## ♥編集後記♥

協会の活動につきましては、これまでのところ予定されております通り滞りなく進められておりますものの、この度発生した新型コロナウイルスの感染拡大の兆候が止まらない状況にあります。

予定されている様々なイベントの開催に規制が生じて人々の往来が途絶えることは、観光業界にとってもこれまで経験したことがない事態に発展する恐れが出てきました。拡大を防ぐためにもまずは自身への感染を防止しつつ、最大のイベントであるオリンピック、パラリンピックに影響が出ませんように、一日も早い終息を祈りたいと思います。 Y. K